



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
3/6 (月)	+ 300	▲ 3,000	▲ 2,700	国庫短期証券 発行・償還 (3M)			
3/7 (火)	+ 1,000	+ 5,000	+ 6,000				米: FRB議長、上院銀行委員会で半期に一度の議会証言
3/8 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国債発行 (30年)			日: 景気先行CI指数 (1月) 米: FRB議長、下院金融委員会で半期に一度の議会証言 欧: ECB総裁、講演
3/9 (木)	▲ 1,000	+ 2,000	+ 1,000				日: GDP (4Q) 米: 新規失業保険申請件数 (3月3日終了週)
3/10 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M) 流動性供給			日: 金融政策決定会合 終了後に黒田総裁会見 日: 国内企業物価指数 (2月) 米: 雇用統計 (2月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初52兆9,800億円から始まった。その後、30日、31日には年度末諸払いもあり549兆3,700億円まで増加した。2日には税・保険揚げがあり、週末となる3日までに516兆8,000億円 (速報) まで減少し越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.010%からスタートした。週を通してビッドサイドの調達意欲は底堅く、その後も▲0.011%~▲0.010%で安定的に推移した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.010%~▲0.008%程度の水準で出合が見られた。来週の予定は、国内では、日銀金融政策決定会合 (9日、10日)、GDP (4Q)の発表 (9日) などがあり、海外では米FRB議長の半期に一度の上下院議会証言 (7日、8日) やECB総裁の講演 (8日) などがある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### <レポ>

足許GC取引は、月末越えとなる週初は▲0.09%から出合い始め、その後は▲0.085%~▲0.08%の狭いレンジで推移した。短国3mの入札があった3日の取引では、▲0.085%近辺の出合いから始まったものの、後場引けには▲0.100%を下回る水準で取引された。SC取引は2年435~444回債、5年146~155回債、10年350~369回債、20年179~183回債、30年65~77回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約4,800億円で、週間償還額 (約2,600億円) を上回った。発行市場は、電気機器や鉄鋼、石油製品等の複数の業態で大型案件が見られたものの、案件自体は少なく、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は先週末の27兆9,261億円から2日時点で26兆8,320億円と減少した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。一方で、発行残高が積みあがっている銘柄や3月末を超える発行等を中心にややレートの上昇も見られた。

来週の週間償還額は、約4,900億円となっている。発行市場は、決算期末の有利子負債圧縮のため、期日での再発行が少なく、償還が増えると思込される。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出合いを予想する。8日に、CP等買入オペが4,000億円程度オフアされる予定となっている。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.01

### <TDB>

3月3日の3M (1142回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1842% (前回債▲0.1303%)、平均落札利回り▲0.1846% (前回債▲0.1418%) となった。来週は3月8日に6M、9日に3Mの入札が予定されている。